

短歌・俳句の鑑賞①

— 短歌・俳句の表現をつかむ —

漢字の成り立ち

◆実施日

月

日

得点

/50

① 次のそれぞれの文の——線部のカタカナを漢字に直して書きなさい。

(2点×8)

- (1) 海岸にシオが満ちる。
 (2) ハリと系でぬい物をする。
 (3) 木のミキから生えた枝。
 (4) 長さがニシヤクの蕃薇。
 (5) バケツの水をスてる。
 (6) マズしい家。
 (7) 皿をアラう。
 (8) すずめが空をトぶ。

--	--	--	--	--	--	--	--

② 次のそれぞれの漢字の成り立ちとしてふさわしいものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(2点×8)

	(7)	(5)	(3)	(1)
	飼	下	本	目
ア 象形文字	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ウ 会意文字				
エ 形声文字				
イ 指事文字				
	(8)	(6)	(4)	(2)
	信	管	認	男
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

③ 次のそれぞれの短歌を味わい、あとの問いに答えなさい。

(合計18点)

A 向日葵ひまわりは金の油を身にあびてゆらりと高し日のちびさひびさよ

前田夕暮まえだゆうぐれ

B 白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよしら

若山牧水わかやまぼくすい

C 垂乳根たらちねの母が釣りたる青蚊帳あおがやをすがしといねつたるみたれども

長塚節ながつかたかし

D 夕焼け空焦げこきはまれる下にして氷こおらんとする湖うみの静けさ

島木赤彦しまぎあかひこ

(1) 短歌を数えるときに用いることばを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 句 イ 編
ウ 首 エ 本

2点

--

(2) A～Dの短歌には、枕詞まくらことばが用いられているものが一つあります。その枕詞を短歌の中から書きぬいて答えなさい。

2点

--

(3) A～Dの短歌から、①倒置法とうちほうが用いられているものと、②体言止めが用いられているもの一つずつを選び、それぞれ記号で答えなさい。

2点×2

①	
②	

(4) A・Bの短歌の句切れとして最もふさわしいものを、それぞれ次

から選び、記号で答えなさい。

- ア 初句切れ イ 二句切れ ウ 三句切れ
エ 四句切れ オ 句切れなし

2点×2

A	
B	

(5) Cの短歌と同じ季節がよまれている俳句を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 菜の花や月は東に日は西に

イ 赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり

ウ 遠山に日の当りたる枯野かな

エ 閑かさや岩にしみ入る蝉せみの声

- 与謝蕪村よさぶろん
正岡子規まさおかしき
高浜虚子たかはまきよし
松尾芭蕉まつお ばしやう

2点

--

(6) Dの短歌の解説文として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 情景がかけ絵のようにかがび上がってきて、そのまま童話になるような世界を感じさせている。

イ 色の対比をあざやかに感じさせながら、青春の悲しみと孤独こどくを歌っている。

ウ 遠近法を用いた一枚の絵画を思わせるような作品で、真冬の情景をえがいている。

エ 上の句の力強い表現と対比するように、下の句では、緊張感きんちやうかんのある情景を表現している。

4点

--